

第7回 大田区基本構想審議会第1部会 議事要旨

日時	平成 20 年 1 月 30 日（火） 午前 9 時 30 分～12 時
会場	大田区役所 8 0 1 会議室
出席者	中井委員（部会長）、奥田委員、田中（常）委員、千原委員、富田委員、舟久保委員、星野委員（五十音順）

1 開会

2 配付資料の説明

3 審議

第1専門部会の基本目標、個別目標について

- ・ 基本目標については、事前にご連絡したとおり「まちの魅力と産業が世界に向けた輝く都市」としたい。「都市」と書いて「まち」と読むこととしたい。皆さんの意見を考えるとこれがもっとも適切と思うが、これでよいか。

（一同了承）

- ・ 続いて、説明文について、後の個別目標と同様に、豊かな水辺、羽田、高度技術という順番にしたらどうかというコメントを事前に頂いた。これはコメント通りに修正したい。
- ・ 「（都市環境や）産業技術」とあるが狭い意見にとられてしまう。地域産業という、幅広な言葉に代えた方がいい。高度技術については後で述べられており、重複する。技術ではなく技能集積という面もある。産業技術に特化しない方がいい。
- ・ その後の文言とのつながりを踏まえ、「地域産業の蓄積」としたい。

<個別目標1>

- ・ 水と緑という言葉には「潤い」という意味が含まれているので、「潤い」は他の言葉に変えた方がいい。
- ・ 「安全・安心で」というのは日本語としておかしいし、第2部会の基本目標に「安心」と入っているので、基本目標1では「安心」を取って、「すべての人に安全で」としてはどうか。「潤い」は「活気」「活力」としてはどうか。
- ・ 安全であれば安心なので、安心は取ってもいい。潤いは活気でもいい。
- ・ 第2専門部会の安心と、第1専門部会の安全・安心とでは意味が違う。第2専門部会は区民の幸せ、高齢者・障害者など広く幸せな生活、その人らしさ

- という意味。第1部会では防犯・防災対策を意味している。その意味で「安全・安心」と表現した方がいいのではないか。
- ・ 落ち着きと安らぎのあるまちづくりという意味で、潤いの方がいい。活気でもいいが、これは産業にもかぶる。
 - ・ ここでは活力や活気に関する内容が盛り込まれていないので、潤いの方がいい。安心・安全は安心がなくてもいいのではないか。
 - ・ 土地利用を成り行きに任せるべきではないというニュアンスを「快適」という言葉でどう表現するか。産廃が悪いわけではないが、工業のためにつくられた土地が新しい産業群に変わっていくことは望ましいことなのか。
 - ・ 潤いはそのまま残し、水と緑だけではなくて、広い意味での潤いを意味することとしたい。安心には第2専門部会と違う意味も入っているが、ここは安全ということで「安心」は切りたい。
 - ・ 緑は漢字にするか、ひらがなにするか。また、「大事に」より「大切に」の方がいい。
 - ・ 緑は漢字の方がはっきりした意味になる。樹木を中心として緑を守るということで、具体的でいい。
 - ・ 「緑」という漢字には花も入ると、花と緑の運動をしている地域の方から聞いた。水という漢字は別途入っているので、緑も漢字の方がいい。
 - ・ それでは緑は漢字にする。「水と緑を大切にし、すべての人に安全で潤いのある暮らしを実現します」とする。
 - ・ 三段落目に「水と緑」があるが、それを最初にした方がいい。
 - ・ 防犯・防災より先にして第二段落にするか、それとも最初の段落にすべきか。今の最初の段落は個別の地域の話であるので、最初としては相応しくないか。そうすると、「水辺や緑など」を第一段落、「防犯・防災」を第二段落、その後「大森・蒲田」という順番に変えるか。
 - ・ 大田区の基本路線、これから目指すべき目標は大森・蒲田・羽田空港ということではないか。キャッチフレーズの順番にあわせるより、全体の方向性の重要性にあわせた方がいい。そのため原案通りの順がいい。
 - ・ 今の意見と同じ意見である。
 - ・ 「隣接市区に負けない」という文言は不要ではないか。品川や川崎のようなまちを目指すのか。例えば「個性と魅力にあふれた」ではいかがか。
 - ・ 確かにかなり攻撃的な表現であるし、隣接市区がどこかもよく分からない。それでは、「隣接市区に負けない」は「個性と魅力にあふれた」とする。
 - ・ 羽田空港や観光については個別目標2に入れた方がいいという意見もあったが、ここは交通のことを言いたいということではないか。「羽田空港へアクセスする人が快適に不自由なく」は余分なのではないか。また、集客・観光は必ずしも臨海部だけの話ではなく、個別目標1にあった方がいいのではない

いか。「区内で暮らし働く人が快適に不自由に移動することが出来るよう」などとして、ここに入れておけばいいのではないか。

- ・ 「区内で暮らし働く人や訪れる人」としてはどうか。
- ・ 「区内で暮らし働く人や来訪者が」としたい。
- ・ 前半の「羽田空港へアクセスする人」は削除するということが。
- ・ ただし、後ろの「羽田空港の立地などを活かした」は残す。羽田に限らず、都市内全般の交通環境を整備することは重要なことだと思う。順番はペンディングにしたい。
- ・ 活力と潤いのところに、アートのお話が出ているが、スポーツを入れたい。「アートやスポーツをまちづくりに取り入れる」としたい。
- ・ 羽田の区民意見交換会でもスポーツは話題になった。第2 専門部会でも入っていることではあるが、だからここで入れなくていいということでもないだろう。アートやスポーツをまちづくりに取り入れるということだと思う。
- ・ それでよいのではないか。
- ・ では、「アートやスポーツ」としたい。

< 個別目標 2 >

- ・ ここに羽田空港へのアクセス、観光施設等を入れるというコメントを頂いた。この点はいかがか。また、「利活用」という文言や「首都圏全体が潤う」という表現についても事前にコメントを頂いた。利活用については、最近よく使われている言葉であり、このままにしたい。「首都圏全体が潤う」というのは書き過ぎではないか。ただ、意図としては区民だけではなく都民一般ということだと思う。それが反映する文言に修正したい。
- ・ 観光は個別目標 1 にもある。どちらかに入れるべきか、両方に入れるべきか。
- ・ 活力という意味では個別目標 1 だが、個別目標の 2 と関係はある。
- ・ ここもペンディングとしたい。観光も羽田空港へのアクセスもこっちに書いておいた方がいい気がする。個別目標 1 の記述から削除したということもあるので。アクセスがきちんとなければ国際交流拠点になり得ない。また、最後の段落の「暮らしていたりする」というのは変な表現。
- ・ 「区内で暮らす」でいい
- ・ 「区内で生活している」ではどうか。
- ・ 今後の人口構成を考えると、海外の人に負うことが増えてくる。快適に過ごすといっても、我々が考える快適と、彼らが考える快適とは乖離がある。「主体性を尊重し、快適に」といった表現があってもいいのではないか。
- ・ 文化の融合、日本なりに外国の考え方も理解して、ということだろう。日本は外国人居住者が少ない。羽田が 1 億人規模の利用者を迎えることになると、異文化を排斥するのではなく、異文化を主体的に取り入れるという意味だと

いい。今の表現は外国人が勝手にやってもいいような感じにもみえる。

- ・ 「外国の人々と区民が」といった感じが。
- ・ 原案ではあくまで「外国の人々が」であり、そうした修正もあり得る。
- ・ 相手の文化や生活様式も含めて認めるという意味だろう。この表現でもいい。最初の文は「区内」を削除して「大田区を訪れたり、暮らしていたり」としてはどうか。
- ・ 個別目標1の「区内で暮らし働く人や来訪者」は移動だけに限定しているが、移動に限定しなければ、ここと意味は同じになるのではないか。
- ・ 区民全般というよりは、外国人に重きをおいている。羽田国際化で外国人の来訪者・在住者が増える。ここはまた後で議論したい。
- ・ 個別目標1と2だが、1は暮らしを実現するということで、生活する人、住んでいる外国人として統一する。個別目標2では、外から来る人ということで考えて、観光施策も2に入れるということでどうか。
- ・ 観光施策は産業でもある。観光は特殊で、1と2の両方に入っているでもいい。1はたしかに生活者の視点であり、外国人を含む区民主体、2は来訪者が中心。ただ、外国の方々の話をどうするか。もう一度、後で議論したい。

< 個別目標3 >

- ・ ものづくりについてはひらがな表記がいい、「ものづくり」にした方がいい、というコメントがあった。
- ・ 説明文の最後ではものづくりが重複しているので後段からは削除して、「まちの魅力と産業とが支え合うまちをつくります」でいいのではないか。
- ・ 「ものづくりや観光などの多様な産業が、地域の魅力を高めるまちをつくります」としたい。
- ・ 産業振興の方ではカタカナで「モノづくり」という言葉を使っている。
- ・ 行田市にあるのは「ものづくり大学」。大学総長がその点にこだわった。どういう形でもいいが、大田区としては統一すべき。
- ・ ものづくりはものをつくるという、動作から出来ている言葉。「ものづくり」は昔からある、固有の名詞。ここは説明文もひらがなにしておき、全て変更するのも大変なので、ひらがなの「ものづくり」としたい。

基本計画で取り組むべき施策、基本計画の枠組みについて

< 個別目標1 >

- ・ 交通ネットワークについては、駅前自転車置き場の拡充整備を施策に入れるべきとのコメントを頂いた。説明文にもある内容であり、これは施策に入れることにしたい。また、安全、安心なまちづくりについては、施策例の「災害時」のあとで、地震・水害・火災と例示すべきとのコメントを頂いた。

- ・ 近年、水害は起きていないが、皆様に思い起こして頂きたい。
- ・ 省エネやエコロジー関係はどこかで言及されているのか。
- ・ 第3専門部会で出てくる。
- ・ 一般住宅の省エネについては第3専門部会には入らないのではないのか。
- ・ 省エネルギーの推進に入ってくるのではないのか。
- ・ 観光のまちづくりが、観光産業に限定されて出てきている。地域特性を活かしたまちづくりの中に、「観光や地域の特色を活かす視点で」として、施策例に、池上・馬込・洗足池等のまちづくりと入れてはどうか。
- ・ 基本目標の順番が決まれば、基本計画の順番も連動して変わるということか。
- ・ 安全、安心なまちづくりでは、災害時のニーズは男女で違い、高齢者や子供のニーズも違う、という視点で災害時の対策を考えるということを入れたい。
- ・ いわゆる災害弱者のニーズにあわせた対応が望まれるということであろう。
- ・ 多様な避難場所、誘導が必要ということだ。最後の2行目を「多様な避難所の確保」「防災・防犯対策」としてはどうか。
- ・ 「地域特性を活かしたまちづくり」で、「ランドデザイン等の」でなく「ランドデザインや」がよい。また、「安全、安心なまちづくり」より「安全で安心なまちづくり」が表現としてはよいのではないのか。防犯カメラに言及されているが、大田区では積極的に推進しているのか。
- ・ 積極的かどうかはともかく、設置は進んでいるし、犯罪抑止の観点では必要。
- ・ それでは文言として書いてもよさそうだ。

<個別目標2>

- ・ 「国際化に対応したまちづくり」の最後の文章だが、十分に理解されているのではないのか。その上で、ということではないのか。他は概ね、こんな感じであろう。

<個別目標3>

- ・ 「ビジネス・インキュベーション」という言葉は認知されつつあるが、括弧書きで「起業支援」や日本語で表記した方がよいのではないのか。
- ・ 「産業創造」と大きく定義している。起業支援では非常に小さな話になる。漢字にするなら「産業創造」の方がいい。
- ・ これはどなたでも分かるようにする方がいい。今の意見も理解できるが。
- ・ 産業創造機能の充実でよいのではないのか。中の記述は起業支援だけにとどまっているので、内容は膨らませたい。
- ・ 横文字が多いと、普通の区民が読みにくいという意見がある。例えば「水辺」「ウォーターフロント」は統一した方がいい。技術、技能に関しては、「技能・技術」「技術・技能」「技能、技術」と混在しており、これも統一すべき。

- ・用語の統一を図るべきと言うことが第一。これは全部の議論が終わってから、対応したい。第二に、技能と技術はセットで考えるべきという意見だ。どちらが先の方がいいのか。技能は人に依存する。
- ・技能者は道具や機械を使う。機械や道具と技能とが付いて一つの技術になると捉えている。広い意味では技術には技能も入る。工業人からすると技能が先と思うが、一般文献では技術が先のことが多いようだ。ワンセットにすればどちらが先かはこだわらない。
- ・考え方次第だと思うが、通常は「技術・技能」の方を多く見かける気がする。
- ・そこは統一して使うこととしたい。
- ・観光産業の最後に、歴史的な話が抜けている。
- ・観光のまちづくりについて書いてある。その視点も入れて、池上などを入れればいい。
- ・観光のまちづくりが個別目標と1と3とで出てきてもいい。文章は重複しない方がいいが、施策例は重複、再掲があってもいいように思う。
- ・新たなビジネスチャンスを拡大していくために、世界をにらんで新しいビジネスモデルを創る機能が日本には決定的に欠けている。そうした話を入れたい。日本がこれから得意とするビジネスモデルそのものを考えていかないと、ジリ貧になる。
- ・今の点はどちらかという区というよりも国の問題のような気もするが。
- ・企業の改善の話の他、異分野との連携、アーティストやデザイナーとの連携など、膨らませて、今のビジネスモデルから次の展開を考えるようなことを入れて欲しい。
- ・新たな都市文化を創造する産業人の育成とある。産業を担う人材は技能者・技術者だけではなく、新しいビジネスをつくれる人も読めるようにしたい。
- ・後継者だけではなく、新規参入などを取り込みながら書いた方がいいということだろう。

< 基本計画の枠組みについて >

- ・「1 取り組むべき施策」と「2 基本計画の枠組み」はどう違うのか。前者は我々が議論したことをまとめたもの、後者はそれを基本計画の施策として打ち出したもの、ということのようだ。後者も専門部会で考えるのか。
- ・後者が部会の報告書であり、前者はあくまで議論したことであって、報告書にはならないということか。
- ・審議会に何が求められているかということである。計画づくりはそれが得意な人がやるべきこと。その中にきらりと光るものを入れるのが審議会の役割。「取り組むべき施策」の内容が入ることが重要であり、それを体系にどう盛り込むべきかを考えるのは区役所の仕事だ。答申に書くなら、前者を強調し

て欲しい。我々は大事な点が何かの議論できるが、基本計画の枠組みは判断できない。枠組みを部会で議論して頂くのは申し訳ない。中項目としてどうまとめるかは部会長と事務局とで考えることとしたい。ただ、内容をまとめてしまうと尖った部分が見えなくなる。せっかくここでしか出来ないような議論をしてきたので、むしろそちらを答申の中で報告頂きたい。

積み残しの議論

- ・ 個別目標1の説明文の順序について。拠点の話を最初にするか、ベーシックな水・緑、防犯・防災の話を最初にするかで、受ける印象が随分違う。
- ・ 全体としてはインパクトが重要。中心市街地の話は埋もれがちであり、インパクトのあることからはじめてもいいのではないか。
- ・ 水辺や緑から始めると、どこの区でも言っていることになりそうだ。
- ・ まちの魅力を羽田におくのか、水と緑におくのか。もし羽田を強調したいなら、個別目標2を個別目標の筆頭にしたい方がいいのではないか。
- ・ その場合は、大森・蒲田は後ろでもいい。今の順番なら、大森・蒲田・羽田が最初に来た方がいい。個別目標2を最初に持ってくるのも大胆ではある。
- ・ 羽田も大切だが、区民の生活が安全で潤いある生活が出来た上での都市基盤なので、ハードを強調すぎると区民は納得できないのではないか。
- ・ では、個別目標はこのままにしたい。代わりに、説明文は大森・蒲田・羽田空港の個性と魅力に溢れたにぎわいあるまちづくりを最初にして、水辺や緑、防犯・防災、交通アクセス、という順番にしたい。並べ替えたものを見ながら、部会長と事務局とで表現を微調整したい。大森・蒲田・羽田を修飾できるように修正したい。
- ・ 水辺と緑と羽田と一つの文章にできないか。
- ・ そこは考えたい。

- ・ 個別目標2はどうか。外国人のところは「多様な文化的背景を持つ外国の人々も共に快適に」というイメージでどうか。また、観光や空港アクセスをどう入れるかという課題については宿題とさせて頂きたい。2月8日の第2・第3部会が終わった段階で、修正案を皆様にお送りする。それをご確認頂き、意見があればすぐに頂ければと思う。

- ・ 最後の部会であるので、各委員より一言ずつ頂きたい。
- ・ 委員同士で意見をたたかわせたり、区民の皆さんの意見も頂いたり、勉強になった。答申まで時間もあるので細かいところにも目を入れて頑張りたい。
- ・ 貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。委員の方のことも互いに知ることが出来て、楽しい時間を過ごすことが出来た。大田区の一般の方々

- からの考え方も知ることが出来て、企業人として、大田区の工業人としてこれからどうするか、ある程度フィーリングを掴めたのが一番の収穫だった。
- ・ 今やっている仕事ではグランドデザインや大きな目標をいかにして創るかということを実際に体験する機会がなかったので、喜んで参加した。産業に関する諸々の文言が散りばめられたので満足している。ただ、この先が大変。いかにして 20 年先をきちんと作り上げていくか。日本は統一されて 500 年ぐらいで、ローマ帝国の 1000 年には満たない。まだまだ続けられる。
 - ・ 仕事と地域の活動以外も含め、自分の周りを見回しているつもりだったが、その範囲が狭かったことがよく分かった。今回の体験をフィードバックして、自分の立っているところから活動したい。ありがとうございました。
 - ・ 皆さんの意見がそんなにかけ離れていないと思った。その中でこれから何をきらきらさせるのが大事。今後もよろしく願いしたい。今までの基本構想の中で羽田は意識されていなかった。今回は羽田や国際化が意識されたことは新しいことである。
 - ・ 楽しかった。委員の皆さんは専門分野で活躍されているので、学ぶものが多く、視野が広がったと思う。これを機会にまた集まればいいなと思う。
 - ・ 部会という集まりは終わりだが、部会が解散されたわけではない。文章を確認し、ご意見を頂く作業はよろしく願いしたい。また、全体会が残っているので、発言して頂ければと思う。最後の方は文言をどうするかという議論が多かったが、日本には言霊思想があり、きっちりした言葉をつくると、それが実現するという考え方がある。きっちり議論をして言葉に魂が入っていればそれが実現する。魂が入っていない計画は世の中に多い。魂を入れるには、それなりの議論が必要だ。その辺り、きっちりやらせて頂いた。せっかく異分野の方々が集まっているので、そこから何かの活動に結びついていければと思う。7 回にわたり、ご協力ありがとうございました。

以上